

函館商工會議所ニユ入

發行所

函館市若松町15番7-61号

電話代表 (0138) 23-1181

函館商工會議所

編集発行人 高 間 勉

訓 所

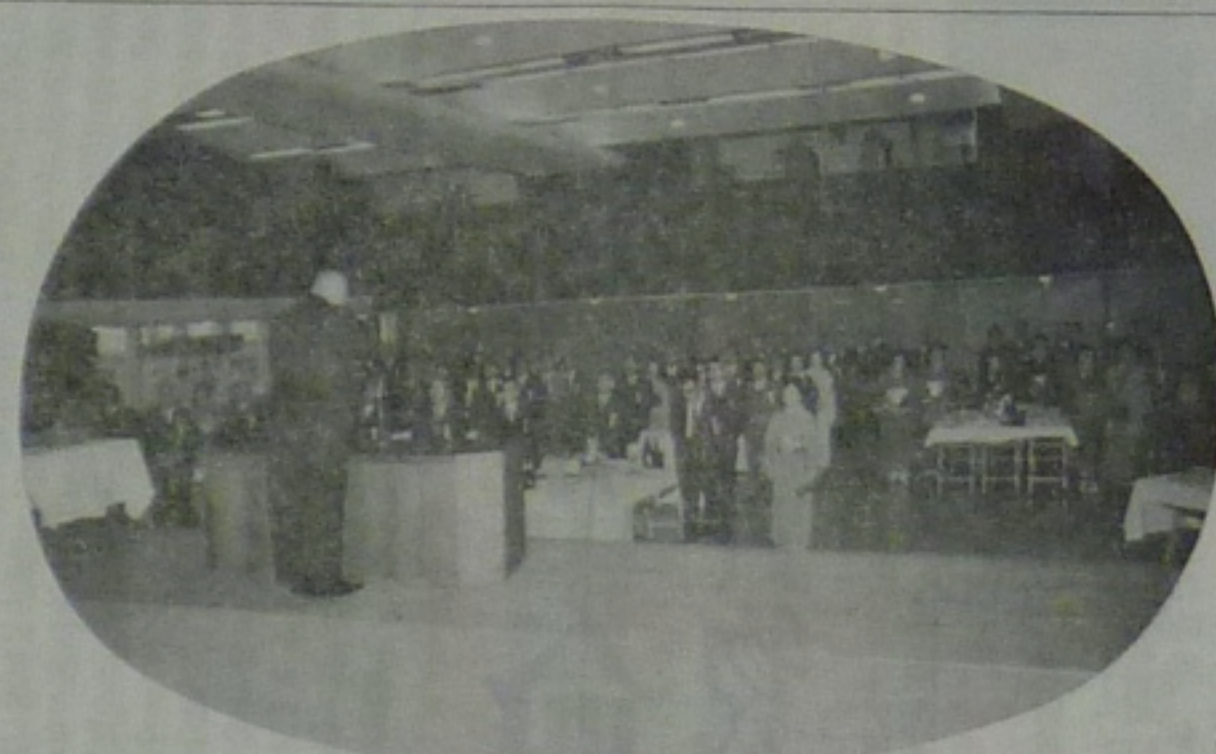
- 1. 「お早よう」を励行しましょう。
- 1. 時間を守りましょう。
- 1. 親切にしましょう。



パーティーを終わって一同記念撮影

新世紀へ決意新た

開道百年 本所記念祝賀会

[illegible]

あいさつを述べる田中会頭

宮崎空港
など視察

本所議員團空路九州、

ねて進めてきた函館空港の整備、拡張工事もちょうやら四十六年度いっぱいには完成のメドがついたので、拡張後の空港にふさわしいターミナルビル建設、計画中であり、立地条件、規模などの面で函館とよく類似した内空港を一応のモデルとして資金構成や運営形態その他

観光資源開発
特別委を新設

報告事項として高間専理事から①新入会員数（三人）②級別変更会員数（六二人）③主な事業概要（42年10月と43年9月）を

第二物産株式会社

代表取締役 田中誠一郎

本社 函館市若松町二二番五号
電話 022 8111 (代表)

営業所 札幌市北一条西三丁目(理容会館)
電話 09 2611

化粧品・石鹼・齒磨
衛生材料・日用雜貨
卸問屋
中村福粧

取締役社長 中村 福松

本店・函館營業所
〒040 函館市豊川町21-8 丁(代)22-7175

札幌營業所
〒060 札幌市南2西12 丁(代)24-3436

室蘭營業所
〒050 室蘭市東町2-24 丁(代)4-4095

北斗電氣株式会社

取締役社長	竹 内 八 郎	
本 社	函館市豊川町7番30号	T22—2237(代)
駅前本店	函館市若松町16番3号	T23—1121(代)
札幌支店	札幌市北8条西1丁目	T71—3101(代)
室蘭営業所	室蘭市幸町4番8号	T2—7450
釧路営業所	釧路市川上町5丁目1番地	T2—6429

函館市主要小売物価

(9月15日)

品 目		単 位	本月価格	指数 (昭和40年 =100)	前月比
穀 平 均 (202品目)				110.4	100.0
食 料 品 (95品目)				114.9	100.0
穀 類 (5品目)				126.4	100.0
うるち米 (非配給)		1kg	155.00	128.1	100.0
あ づ き		100 g	18.00	53.4	100.0
粉 粉 製 品 (4品目)				104.4	100.0
小 麦 粉		1kg	65.00	97.7	100.0
野 菜 (15品目)				97.6	111.1
甘 し ょ		1kg	87.50	125.4	75.4
ば れ い し ょ		1kg	28.13	92.2	93.8
キ ャ ベ ツ		1kg	18.75	40.1	62.5
は ー れ ん 草		1kg	190.00	226.2	—
は く さ い		1kg	44.35	85.4	91.6
ね ぎ		1kg	91.25	80.4	86.9
大 玉 ね ぎ		1kg	68.50	171.8	163.1
に ん じ ん		1kg	47.50	83.6	96.9
き ゅ う り		1kg	56.25	68.7	84.0
果 物 (10品目)		1kg	97.50	63.8	216.7
バ ナ ナ		1kg	200.00	74.1	110.2
夏 み か ん		1kg	—	63.5	100.0
り ん ご ()		1kg	—	—	—
鮮 魚 介 (11品目)		100 g	—	116.9	97.0
ま あ じ		1kg	85.00	101.5	98.6
ま が れ い		1kg	—	125.2	—
さ け (切り身)		1kg	33.33	160.1	78.4
さ ば		1kg	—	119.8	—
さ ん ま		1kg	9.00	88.4	108.0
い か		1kg	12.50	92.0	—
乾 物 (5品目)		1kg	13.00	93.0	98.1
た ら こ り		100 g	80.00	86.6	100.0
干 の り		1箱(10枚)	200.00	75.5	100.0
畜 産 食 品 (9品目)				87.0	100.0
牛 肉 (ロース・中)		100 g	200.00	134.9	100.0
お た ち ()		1kg	85.00	264.4	100.0
鶏 卵		1kg	75.00	125.1	100.0
調 味 料 (9品目)				112.3	100.0
し ょ う 油 (2ℓ)		1本	220.00	108.2	100.0
み ぞ		1kg	110.00	115.6	100.0
砂 糖		1kg	140.00	100.8	100.0
織 維 品 (28品目)				103.1	100.0
織 物 (10品目)				99.9	100.4
洋 服 類 (8品目)		1反		103.6	99.2
男子背広服(夏物)		1着	12,000.00	87.2	100.0
男子背広服(合物)		1本	16,500.00	113.9	100.0
男子ズボン(夏物)		1本	2,900.00	87.6	98.0
男子生足服(上下)		1着	4,350.00	116.3	100.0

本所業務概要報告

昭和43年9月

会 議	開催日	件	名
部 員 会	24	農水産部会	
委 員 会	2	総務運営委員会	
	24	総務運営委員会	
	25	簿記運営委員会	
議 員 会	7	議員会役員会	
	8	議員会ゴルフ会	
正会 副会 諮議	6	第76回 正副会頭会議	
	13	第77回	
	24	第78回	
そ の 他	2	全道経営指導員研修会	
	3	青年センター募金委員会	
	5	ストープ展打合せ会	
	7	亀井勝一郎文字碑建立準備委員会	
	11	保健センター誘致促進期成会臨時総会	
	13	市総務委員との隣接町村合併懇談会	
	19	渡島地区指導員との打合せ会	
	24	商取引懇談会打合せ	
	25	経済同友会 山下理事招待会	
諸 会 議 出 席	2	開道100年記念式典 (札幌)	
	2	北海道評論社 座談会	
	3	「北海道0 m」記念開議除幕式	
	4	函館ドック船主懇談会	
	4	函館ドック進水式	
	5	岸能介氏歓迎懇談会	
	6	技能尊重運動対策会議	
	9	観光誘致対策懇談会	
	9	函館商総合開港奉議会説明会	
	10	港務振興会役員会	
	10	函館市特別職報酬審議会	
	12		
	14	北海道青少年教育研究協議会	
	15	八戸加工珍珠加工業者懇談会	
	17	中小企業金融庫 国安理事、を囲む懇談会	
	17	第34回 日商貿易懇談会	

[illegible]

報告	名	建議・要望	調査研究	講習・講演	相談・診断	共催又は外 部団体事業	文庫 貸室 その他	定調	期査	第50回 日商職員總會、常議員會 第28回 日商通商會常員總會 日商90年紀念式典 北海道第二步の地、起工式 職業安定所管内事業所見學實施打合せ會 函館港まつり協賛會理事會懇談會 觀光事業誘致打合せ會 新潟機械球技評會 お茶の會 函館市庁舎新築について 函館一札幌間航空便増便方要望 函館小売物師 デパート、百貨店体売上調査 青函間函館主要貨物移出入実績 食車利用状況調査 モデル貸金調査 特定商工業者調査 広域商業診断調査 中小企業をめぐる一般經濟問題講演會 経営指導員工業コース研修會(東京) 記録保存士職員研修會 全道証券事業談話會(室蘭) 日ソ貿易事情講演會 これからの金融經濟講演會 開道百年職員記念植樹 人の扱い、方、仕事のおしえ方講習會 簿記学校第2期修了証書授与式 第30回計算尺技能檢定試験 金融(21) 稅務(17) 經理(118) 經營(14) 労働(20) 取計(22) 212 青年會議所 定時總會 元市長宗藤大陸氏送別會 感謝狀、記念品贈呈 函館藏組組合清遊會 經濟俱樂部講演會 青函トンネル期成會幹事會 発信(31) 受信(144) 産業會館(57) 別館(28) 計 85 北斗電氣創設40周年記念祝賀會 中川商事新社屋落成式祝賀會 拓銀ビル懇談會 別館入居者との懇談會
----	---	-------	------	-------	-------	----------------	-----------------	----	----	--

商店街の

函館市広域商業

隨心



諦め切れぬこと

林源太郎



私が当国に所司職員
になつてから、幾度五郎
に会つたが、その間に
私が主役となつて、日
々の達成のため努力し
た。

次の二件
①根本武雄の銅像を五條
公園開設の件
②吾国間の移貨物運賃
の交渉の件

①當時は昭和三十三年
長谷義雄一先生、根本武
雄加賀藩士時代に當り
その事蹟を調査した。また
根本の銅像が、東京藤田
熱心と共に共鳴、旁々、五條

加賀先生は強く心を衝めら
れた。五條の舊職地ならぬ五條藩
にでも移設出来れば、故人も
浮はれて、遺族の方々も喜ば
れるに相違ないが、

赤虎の結果、武勝の遺族、
本母等の住職、墨田区の区
長、区会議員、更に附近の
有力者の諒解を得、更に
数日中に、紙に作業を取り
掛けたところ、段落により立
此件が都内各地に掲載
され、突如として新聞に掲載
された。青函トンネル工
は、集團化の要因になる
結果、調査の結果、の造成を固
く、商品の備

定されて居る、その前年、
旭川市で開通した鉄道大
会、以前から行方上り、
阿太大会共が説明を勧め
まされたが、恐ろしく肝骨に
受けて、明年度の国鉄とし
て、運賃値上げを機会に、青
函の報酬による結果、

から、最近国鉄は明年度

その内、仮に五%でも右のような集団化をするなら業界に活力を与え、商賈維持拡大の原動力になるのと推察される。

けで終りになる場合が多
 った。今回の診断結果は
 機な竜頭蛇尾に終らぬよ
 業界並びに関係機関が一
 となつて、報告書の一つ
 教材とし、逐次研究会で
 し、それぞれの分野にお

計店△入舟町8-13 朝井米
穀店△千代台町15-22 稻
葉商店△末広町18-27 函
粉△小田運送△豊川町6-5
錦製△奥田商店△若松町9-
3 函館中興青果物協同組
合△大手町18-7 寺田錦△
入舟町7-10 宝保摩市△新
川町8-1 ト美容センター△中島
町38-18 ト美容センター△中島

の街店商

商業區域市館函

あるし、しかし今後首都圏でネル・高速度自動車道の完成による市場距離の飛躍的短縮により、極めてさざれに全国的な競争にさらされることになる。これを解決して対岸の火事ではなく、当市においてもいすいするものは既に飽和点がある。青森市では最近総合卸地の造成に着手し、体質改善を推進している。

かかる状況下において、

体質改善こそ急務

卸売固地早期造成へ

ひととこれまでの半世紀から、攻めの体制への轉換必要となるであろう。また内においては、当然卸売業の大半は「十字街」であり、若松司のみに密着した開店場を形成する必要のあるところとなり、他都市に比べ恵まれた環境にある。

従つて実態調査書の集

あるにしても今後首都圏でネル・高速度自動車道の完成による市場距離の飛躍的短縮により、極めてさざれに全国的な競争にさらされることになる。これを解決して対岸の火事ではなく、当市においてもいすいするものは既に飽和点がある。青森市では最近総合卸地の造成に着手し、体質改善を推進している。

かかる状況下において、

体質改善こそ急務

卸売固地早期造成へ

ひととこれまでの半世紀から、攻めの体制への轉換必要となるであろう。また内においては、当然卸売業の大半は「十字街」であり、若松司のみに密着した開店場を形成する必要のあるところとなり、他都市に比べ恵まれた環境にある。

従つて実態調査書の集

の完
向に
た。あ
か
し、
げ

「駐車場」「店舗狭隘」
点は、約半数は危機感を
持った。集団化に対する意
識も高い。しかしこれま
た、今後さらに増大するこ
が推測されている車両量事
情からすれば、当然さびし
い交通規制が行われ、営
業に重大な支障をきたすで
あらうことは当然予想され
る。更に、積極的販売拡大
をするためには、売場
の販売力が向上したとし
ても、現在の約一・九倍の
店舗面積が必要と推算さ
れる。

これだけの売場拡張を現
在地ですめることは、
立体化を図る
よりなく、建
築単面の割
度、作業能率
の低下を恐
れ、逆に販売
効率がいマナ
スになる恐れ
もないとはい
えない。とい
ふこのよう
なことから
早晩駅前団地

蓄をため、面積集
点とされる品揃え
上補充を見出し、需
大への受付体制を整備
きである。
ただここを注意を要
点は、単なる集団疎開
団地では無意味であり
集合住宅と高度な協榮
る集団化となればな
当市の場合一九八六
卸売業者すべてが集
すること不可成であ

[illegible]

(No. 87)

発展の方策を探る

診断結果について・中間説明



商店街の中心地帯である松風町付近

[illegible]

あるところから、
遊歩道として開
通する。また、
遊歩道の延長上
に、商店街の再
開発を促すこと
が、この計画の
一環として盛り
込まれている。

(6) 現在のままでの商圏
町村からの吸引が、交通機
関との関係でやや困難であ
る。

右の事情により、本町地
区は地理的中心性に有利して
人口と消費機能も向上した大
きな期待がもたれるものの、
反面都心としての中核管理
機能が欠けることがある。

一方駅前地区は、商館駅
が都心と大盛況近接機能を
果しており、また現在整備を
している管理機能が簡単に
移動すると考えられ、
以上、将来とも中心街とし
て判断は保持できるもの
と判断されたわけである。

ただここで見落しにはな
らないことは、駅前地区は
将来とも都心商店街となり得
るということには、商館駅
の発展・埋没による影響は
少なくないであろう。

また都心商店街は、「
『都知事』」「
魅力」の表現の場であ
る。そこで診断表は「
少く飛躍」と考えら

前記の通り駅前前
地区は、将来とも都心商
店街を獲得する地位に
応ずるとされる。しか
るに現状はまだ、い
ち商館駅に近いほど
表示された商店街の
成長には限られてい
る。また内部では推移
的にシニアを侵蝕し
的に礼装である。本
土のビブスアスの進
許すことにならねど
て、この点において
一層の企業努力が必要
である。

また都心商店街は「
『都知事』」「
魅力」の表現の場であ
る。そこで診断表は「
少く飛躍」と考えら

前記の通り駅前前
地区は、将来とも都心商
店街を獲得する地位に
応ずるとされる。しか
るに現状はまだ、い
ち商館駅に近いほど
表示された商店街の
成長には限られてい
る。また内部では推移
的にシニアを侵蝕し
的に礼装である。本
土のビブスアスの進
許すことにならねど
て、この点において
一層の企業努力が必要
である。

**四、その他商店街に
対する将来への提
案**

(一)十字街商店街
当商店街は、すでに過去の中心街となつたといわれて居るが、高級住宅地とビブレ・S市街並びに観光施設に支えられてゐるのである。力をもってゐて、未だ相当の力をもっている。しかし、当面する最も大きな問題點は、西部から毎年千九百人におよぶ人口流出と、丸井デパートの本町へ移転である。したがつて今後で

ば、協力して取組むならば、その実現も決して夢ではないはず。

先に描いた餅にならぬように、まずここで業界自体の盛り上がりが期待されてゐるところである。

三、佐伯市を念頭に推し進めるとこの地の道五号、二十二号の結点でもある、當市では最交通量の多いところであり、又郊外を結合接点でもありながら、出入口周辺駐車場施設の設置が望まれる共に、歩行者の横断対策も取組む必要があろう。また店舗前商品在庫ではどうしても中部より劣ること止むを得ないが、地域住民との結びつきを深める顧客サービスの向上に努めることも大事である。

五、函館市卸売業の市場拡大の方角

當市は一方が海に面し他方後背地に於いて道南地区(渡島、松山両支庁管内)

は、一月に省庁上から顧問に作業がすすみ、去
四日「商工市」若しくは「商明会」を開いた。
小売業者その他関係者多数が臨聴し、関心
を示すものも、かなりの反響を呼びおこし、
以下、今日の要旨を中心に今回の調査結
い、主要問題点をとりあげ、今後における商
界発展への途を探ってみよう。

本診断は今般に予想される
経済環境その他諸情勢の變
化に対応するもの、商面市
場の将来の方向づけを主
目的としており、その具体
的課題として①小売業につ
いては、都心商店街の将来
の位置づけとその再開発の
プランニング②郊外に關つ
いては、流通近代化の対
応策③市場拡大方向④販
光に關しては、商業に及ぼ
す貴族度の把握の三点を
中心に診断をすすめてい
る。

一、将来の方向づけ
の前提となる函館
市商業の特質と問
題点について

業界全体が函館市の先
入観にかられ何事につ
いても消極的であり、また
自己の力を過小評価し、そ
れがリストラ（危険）を否定
し、投資意欲がそう失な
せて発展のブレーキとな
っている。試みに中心商店街

でも若干ながらもの向上し

て、若手、安定した伸び
着き、中小売業では一
五、六割売上率は二一
上段、道内シアに

百円程度であり、
に換算し僅か六
割ない、た分に
列なけり。また
に即し、小売業
の過剰による細
産性を示し、そ
業の機動的な特
業の特質がな
は、減少のの停
人口の減少にも
着き、安定した
下市、商業の取
当り、道内シア

意

[illegible]

るは、東部既成から二心街にかけての意匠を意味している。小都市においては、都市力の増大と市街地の拡充が市の繁栄の要である。先に述べたような機能的特長をもつて、更に二心構えで商店街を整頓することになることが出来ることである。

(イ) 本町地区の駅前地区より不利な条件がある。

(ロ) 路線商店街であり、急激する車道の通過交通を吸収できる開道に近くにある。

る。この構想では、西都人口は駅街と市街西側な関係が、中野西側の商業アイアップ、社員宅の建設、公団住宅等すること、並びに、ビジネスホテルの建設等考える必要があり、九井デパートの移り受ける影響は、よりも買物品と考へる。現在、市が考へるように、同商店街の二、三、禮品中心の商店街と階以上は市の分庁舎ビジネスホテル等に相俟つて、単に商店街で済まな役働を果す」と思料さる。

④方式町商店街
当面商店街は、市勢の変わり、駅前および本町方の購買力の流出が激しい。当面の問題としては、車両交通対策である。すなわち東街に面する国道五〇号台、これが昭和六〇年

る。この構想では、西都人口は駅街と市街西側な関係が、中野西側の商業アイアップ、社員宅の建設、公団住宅等すること、並びに、ビジネスホテルの建設等考える必要があり、九井デパートの移り受ける影響は、よりも買物品と考へる。現在、市が考へるように、同商店街の二、三、禮品中心の商店街と階以上は市の分庁舎ビジネスホテル等に相俟つて、単に商店街で済まな役働を果す」と思料さる。

④方式町商店街
当面商店街は、市勢の変わり、駅前および本町方の購買力の流出が激しい。当面の問題としては、車両交通対策である。すなわち東街に面する国道五〇号台、これが昭和六〇年